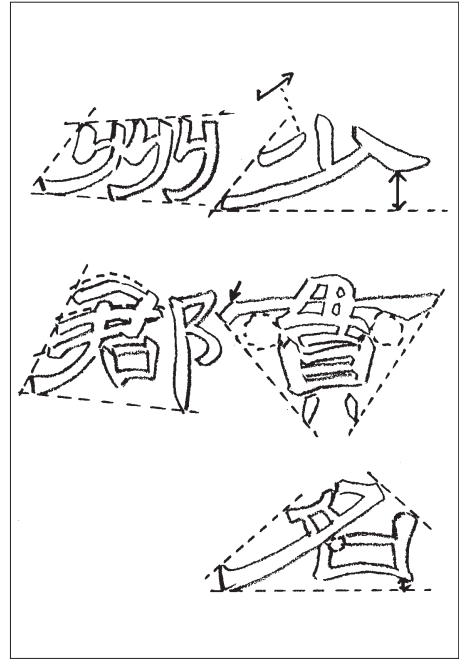


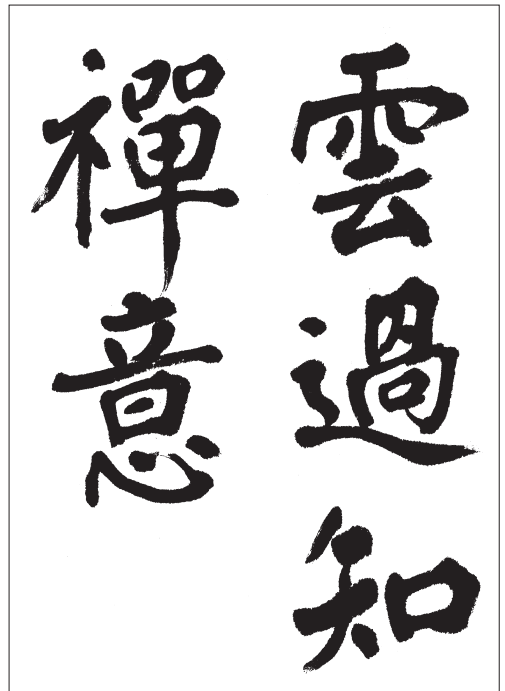
◆半紙二行たて書きに臨書して下さい。出品料420円



曹全碑 後漢

- 1、字句「少貴名州郡」
- 2、形式「半紙タテ使用。右に「小貴名」、左に「州郡」と臨書し、左下余白に「〇〇臨」と調和を工夫して書き入れる。
- 3、概観「曹全碑」の臨書を拝見して、気になる点があります。隷書の大らかな特徴である波磔は、よく取り組まれていると感じますが、起筆の藏鋒と横画の変化を読み取る部分では、よく理解されていないのではと感じます。起筆は、どのように見えようとも全て藏鋒と考えてください(藏鋒とは鋒先を藏す。鋒先を見せない書き方です)。横画は、起筆、送筆、収筆全てにおいて多様な筆使いで書かれています。また、文字が扁平であることにも意を用いて下さい。今月号から半紙に五文字を課題とします。縦画を短く書くようにして下さい。
- 4、各字のポイント
 - 少 二画目は左下から上に引き上げる。四画目の斜画立ち過ぎないようにゆったり運筆。
 - 貴 四画目の長横画は美しい。矢印より入筆し、筆をからげて一旦筆を突き、中心に向かって筆を引き上げ、そこから収筆へと押してゆき波磔。「母」は引き締まった形。「貝」縦画強く、横画稍右肩上がり。
 - 名 二画目の斜画。転折後収筆に向かって押してゆく。「口」横画より上部に突き出す縦画。
 - 州 三本の縦画の収筆の処理に注目。縦画の角度も微妙に変化。
 - 郡 「君」の横画の動き。一画目入筆後右上に移動。後右下へ。二画目稍右肩上がり。三画目更に右肩上がり。

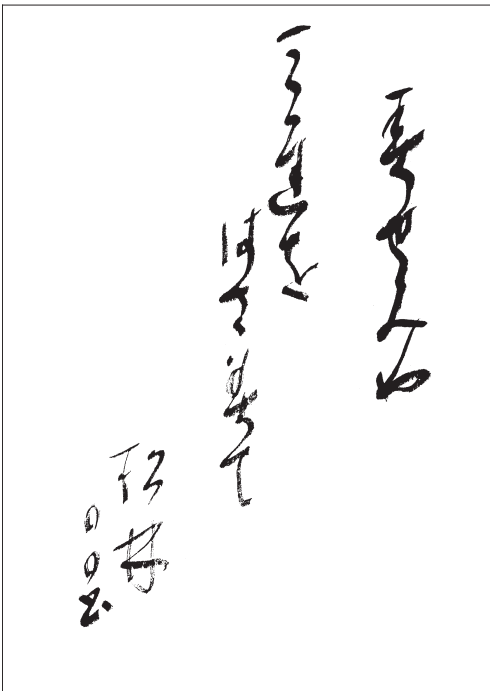
半紙課題(予告) (五月二十二日締切)



平岡華雪先生書 雲過ぎて禅意を知る。(荘宝書)

訳：雲が眼前をすぎのを見ても禅の意を知ることができる。

平岡華雪先生書 春せみや道をはさみて松林(虚子)



曹全碑



少貫名州郡。不奉早世。是以位不副德。

少くして名を州郡に貫くも、不幸にして早世す。是を以て位は徳に副わず。

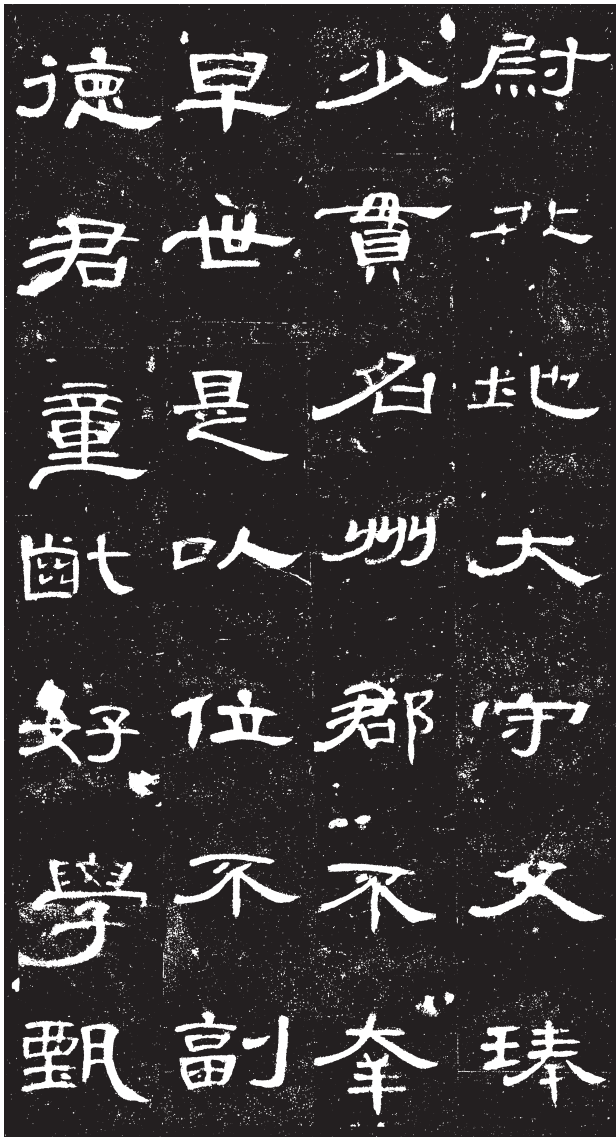
条幅臨書部は半紙臨書部と連動しています。半紙に取り組んだ方は是非条幅にもチャレンジしてください。また条幅だけ出品も大歓迎です。

▽字詰め自由。

▽落款は「○○臨」と調和を

工夫し書き入れる。

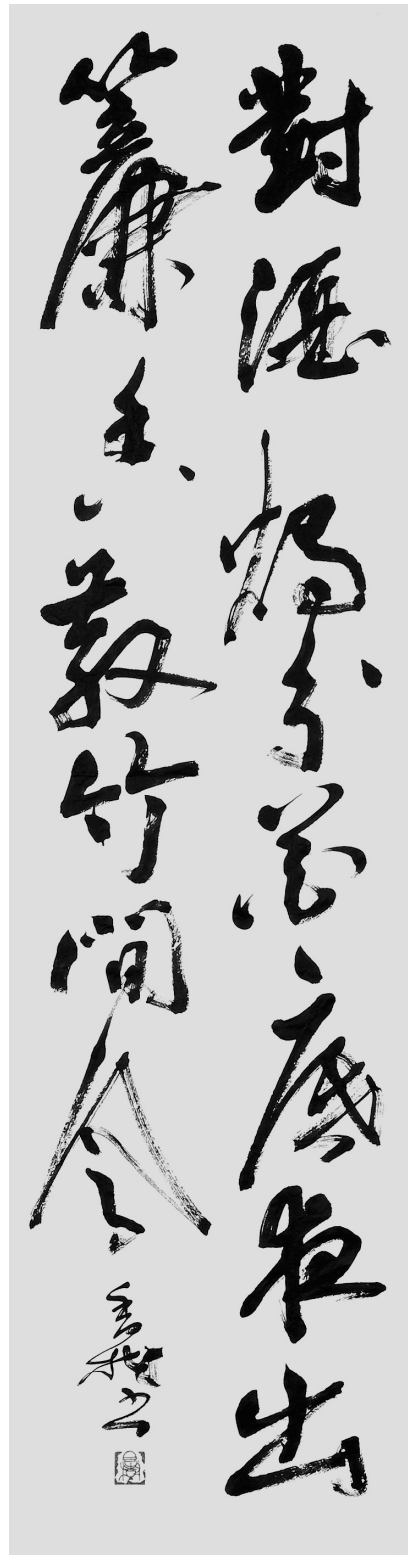
▽出品料五二五円。



◆注意 ・条幅臨書部の出品はバーコード券右空欄に条臨と記入する。

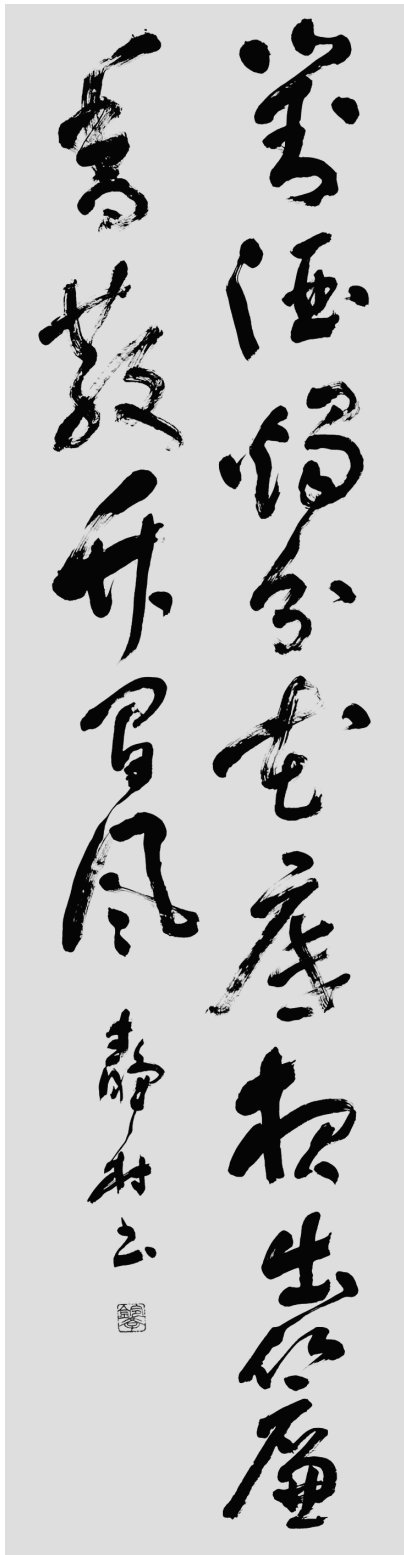
A 高橋香樹先生書

對酒燭分花底夜 出簾香散竹間風 (華幼武)
酒に対して燭は分かる花底の夜、簾を出で香は散ず竹間の風。



B 鈴木静村書

連綿は二ヶ所と少ないが、意連綿を意識した作とした。次字へ移る時、必ず次字の一画目まで書くようにすると意が伝わります。墨継ぎは夜と散「簾」はこの形王鐸にあったので借用。左右の行、文字が横並びにならないようにし、出入りも考えた構成としたい。



今月は課題としては、草書体、形式への取り組み。字典で適切な崩しの草書体を選び、事前に「形・意」共習熟させておく。この場合の留意点は、草書は一般的で平易なもの、奇抜なものは採りあげないように。拙作、掛けて見入るに、右行下辺「出」と「簾」はくつき過ぎ、ゆとりがほしい。訳：花下で酒を飲むときは一灯を数人でもりたて、影を分かち、竹間の風が香をちらすのは簾をでる時である。

予告 (五月二十二日締切) 背城野色雲邊盡 隔屋春聲樹外深 (王安石)

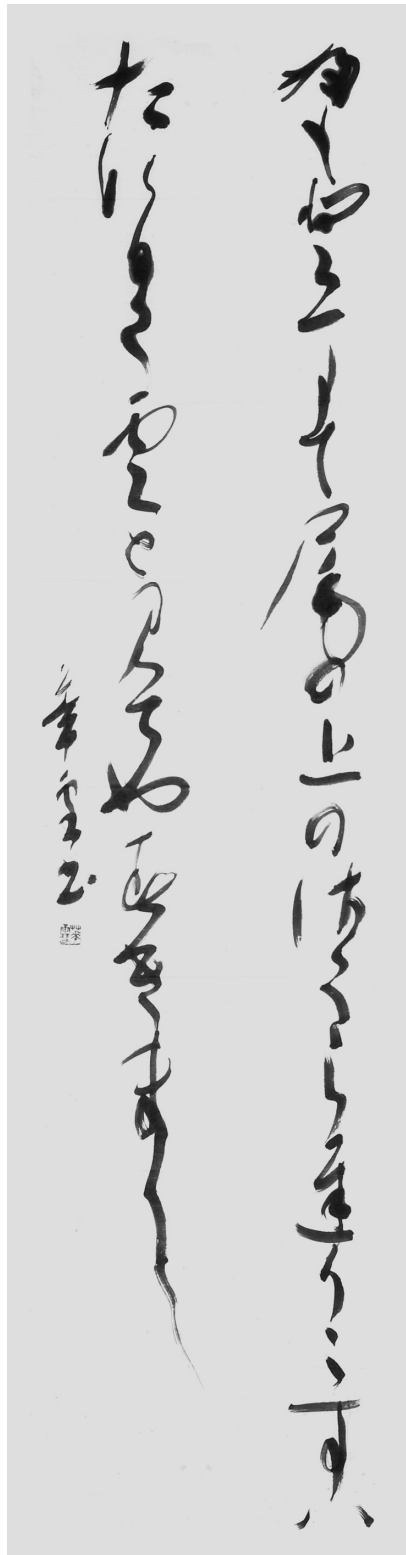
墨継ぎはご覧の通り二ヶ所、潤濁を活かして生成化へ！

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料525円)

A

平岡華雪先生書

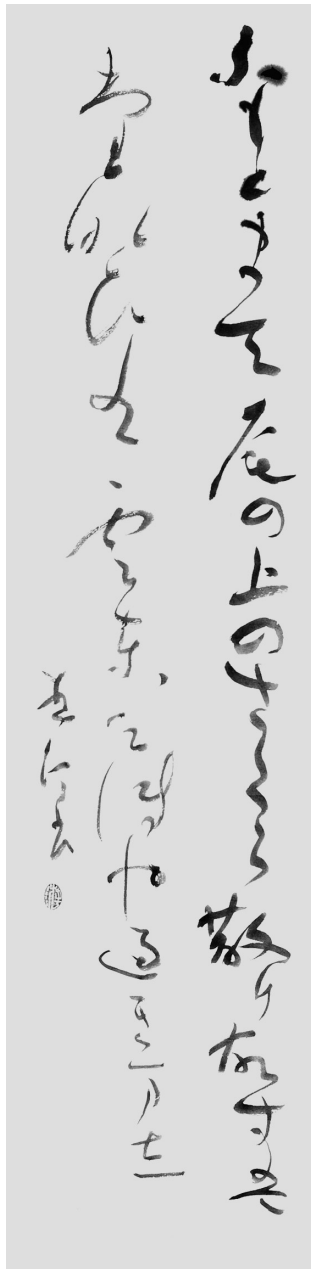
ふもとまでおのへの桜ちりこずはたなびく雲と見てやすぎまし(新古今和歌集 左京大夫顕輔)
 婦も登万て尾の上の佐久ら遅りこす八た那日久雲と見てや春きまし



B

立川遊汀先生書

ふもと末天尾の上のさくら散り故寸盤堂那ひ九雲東三傳や過ぎ万志



做書について左記のとおり簡単に説明しましたが、次回から筆意、ほか具体的に学び方を説明していきます。

学び方

研究部で関戸本古今集の臨書を取り上げましたので(本誌755号14ページ参照)関戸本古今集の做書で書いてみました。做書とは、臨書の一つ。臨書の方法には、形臨・意臨・背臨・做書があります。

形臨—原帖の文字造形を忠実に学ぶ。
 意臨—創作的臨書とでもいいますか、形を通して筆意、内面的要素をくみとる。
 背臨—形臨・意臨を習得した後に、原帖を見ないで臨書する。暗記法ともいう。
 做書—法帖の学習を十分に習得した後、法帖の書風なり、味わいを取り入れて法帖とは関係のない別の文章を書く、臨書の最終段階、そして創作へ。

予告 (五月二十二日締切)

花ちれば訪ふ人まれになりはてていとひし風のをとのみぞする (新古今和歌集)

- ◆注意 ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料525円)

条幅部 随意参考

望月六華先生書

掃地焼香聊自遣 栽花種竹儘風流（郭用中）
 地を掃い香を焼き聊か自ら遣り、花を栽え竹を種え儘風流。



訳：席上を打ち払って香を焼き、いささか心を慰め花竹を栽培するはすべて風流である。

向山朴花先生書

君ゆくや柳みどりに道長し（与謝蕪村）
 君遊久や柳みと利二道な可志



- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料525円）

平岡華雪先生書

名園花草かんぼ香し。(杜甫)

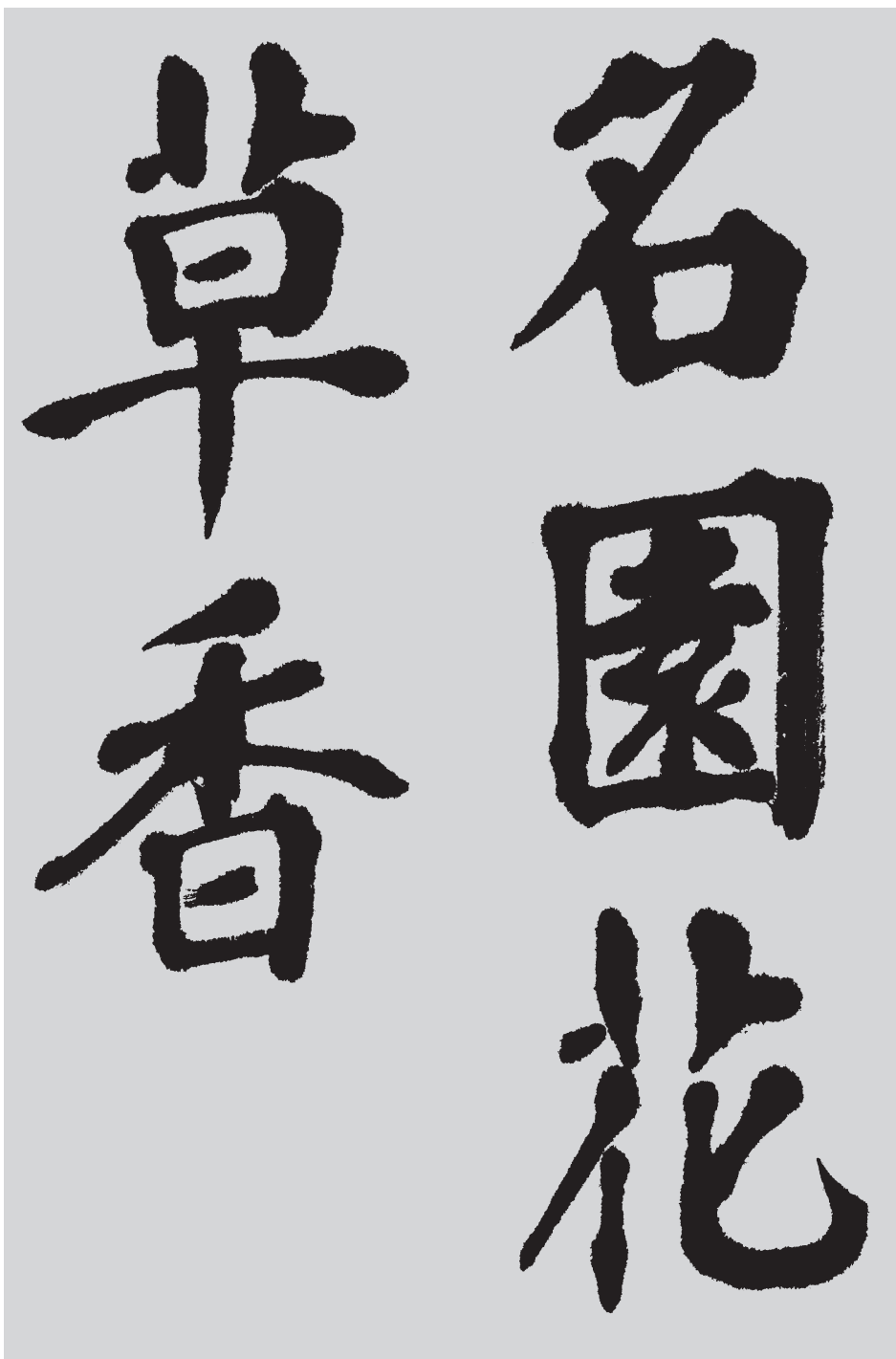
訳：百花はもゆるように咲きみだれている。

〈余白に留意して〉

「園」の分間の処理に、特に留意して下さい。大体余白が均等化されるよう
運筆して下さい。内部の画の接合がポイントです。いい加減でなく、慎重に…。

「名」二画目強く転折、「園」の構えはゆったりと大きく。

「草」冠は縦横横縦の順。縦画は長く出す。

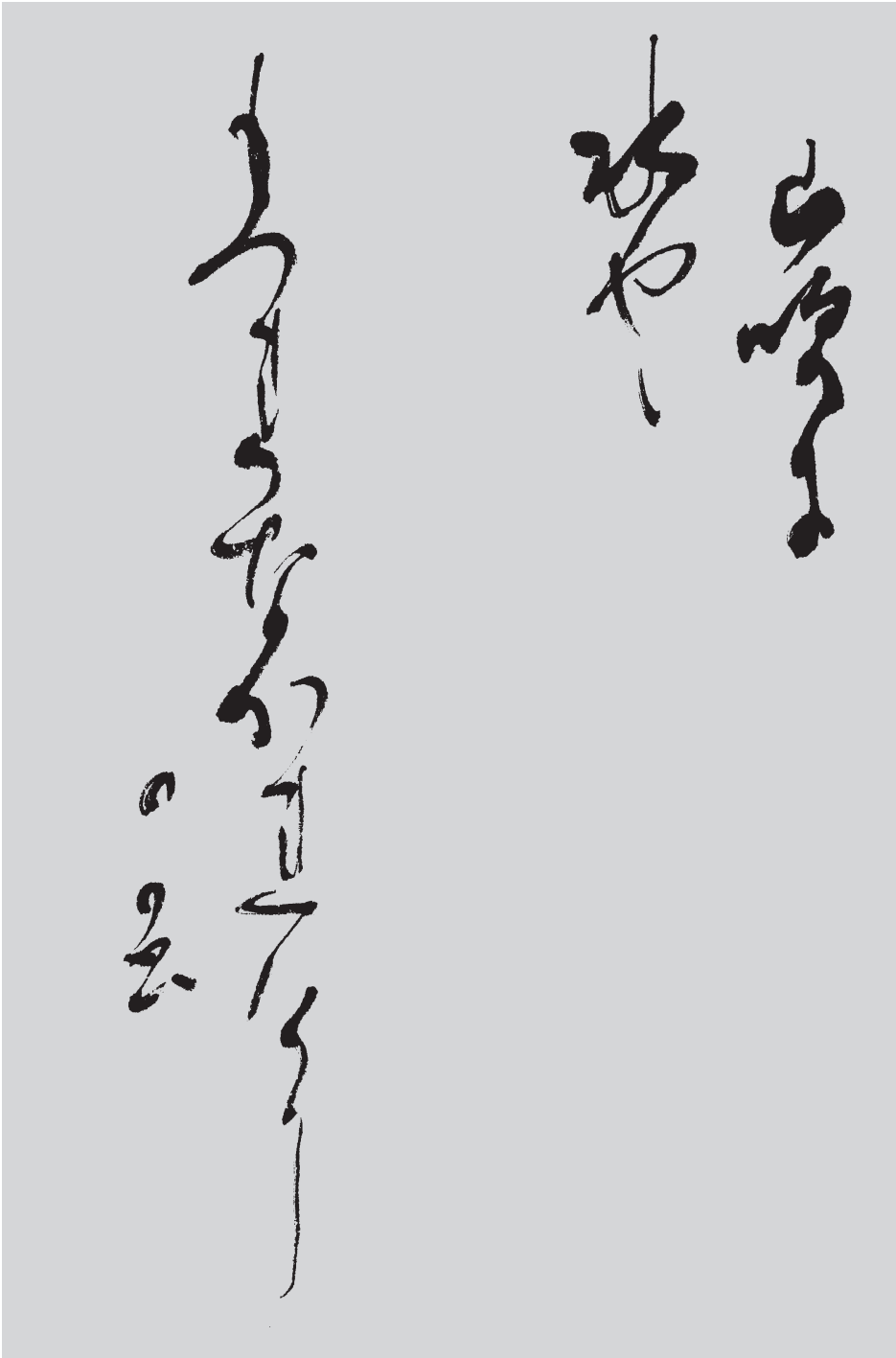


◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は420円。

①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。

平岡華雪先生書

山吹に水や、纏れ流れけり(紫雲郎)
山吹に水や、もつ連なか連けり



〈突いて入筆〉

「山、水、も」は、突き筆で入っています。この入筆は古筆にも多く見られます。鋒先の用筆を錬磨してみてください。

一句ひと筆書きで、しかも長連綿の課題です。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は420円。

①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。

戸張丘邨先生書

林密鳥相喚（釋智寛）
林密にして鳥相喚ぶ。



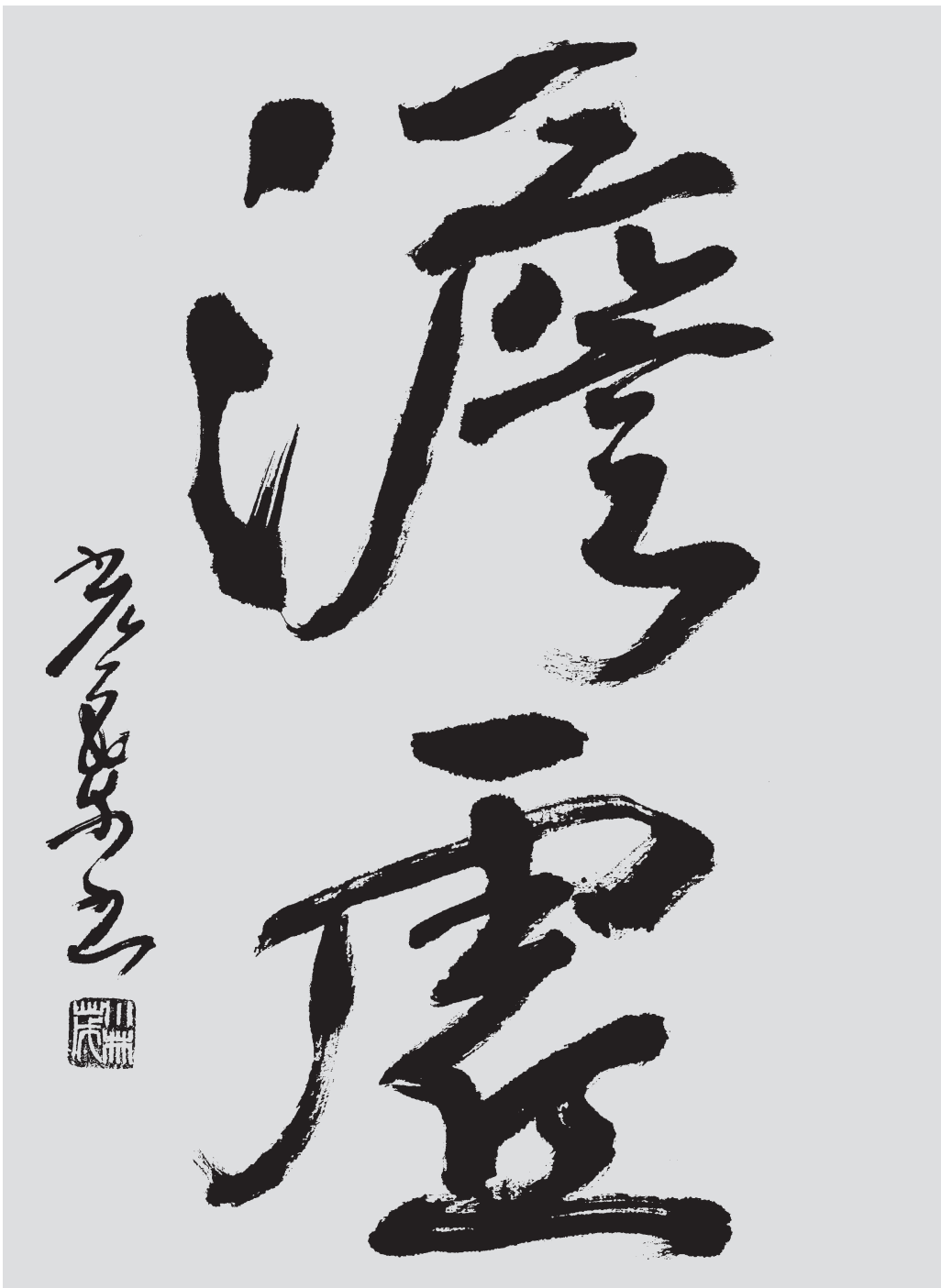
訳：その地の幽邃（ゆうすい）：景色などが奥深く静かなこと）おもうべし

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は420円。

二 字 参 考

小林光葉先生書

澹虚 (張九齡)
澹虚 (張九齡)
澹虚 (張九齡)

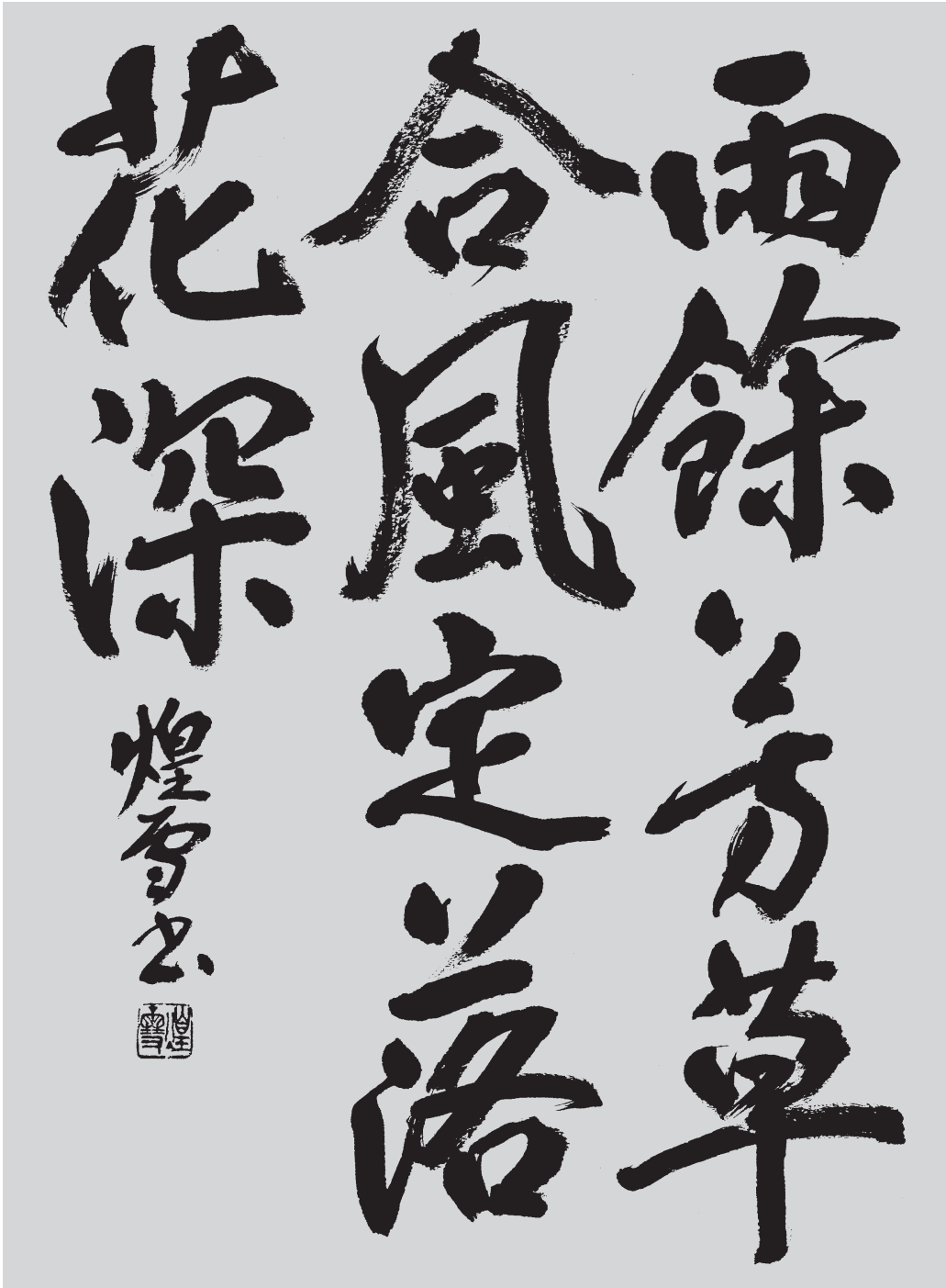


訳：澹は静。心が静かで邪念がないこと。

◆随意部参考として出品してください。

星野煌雪先生書

雨餘芳草合 風定落花深（王翰）
雨余に芳草合し、風定まり落花深し。



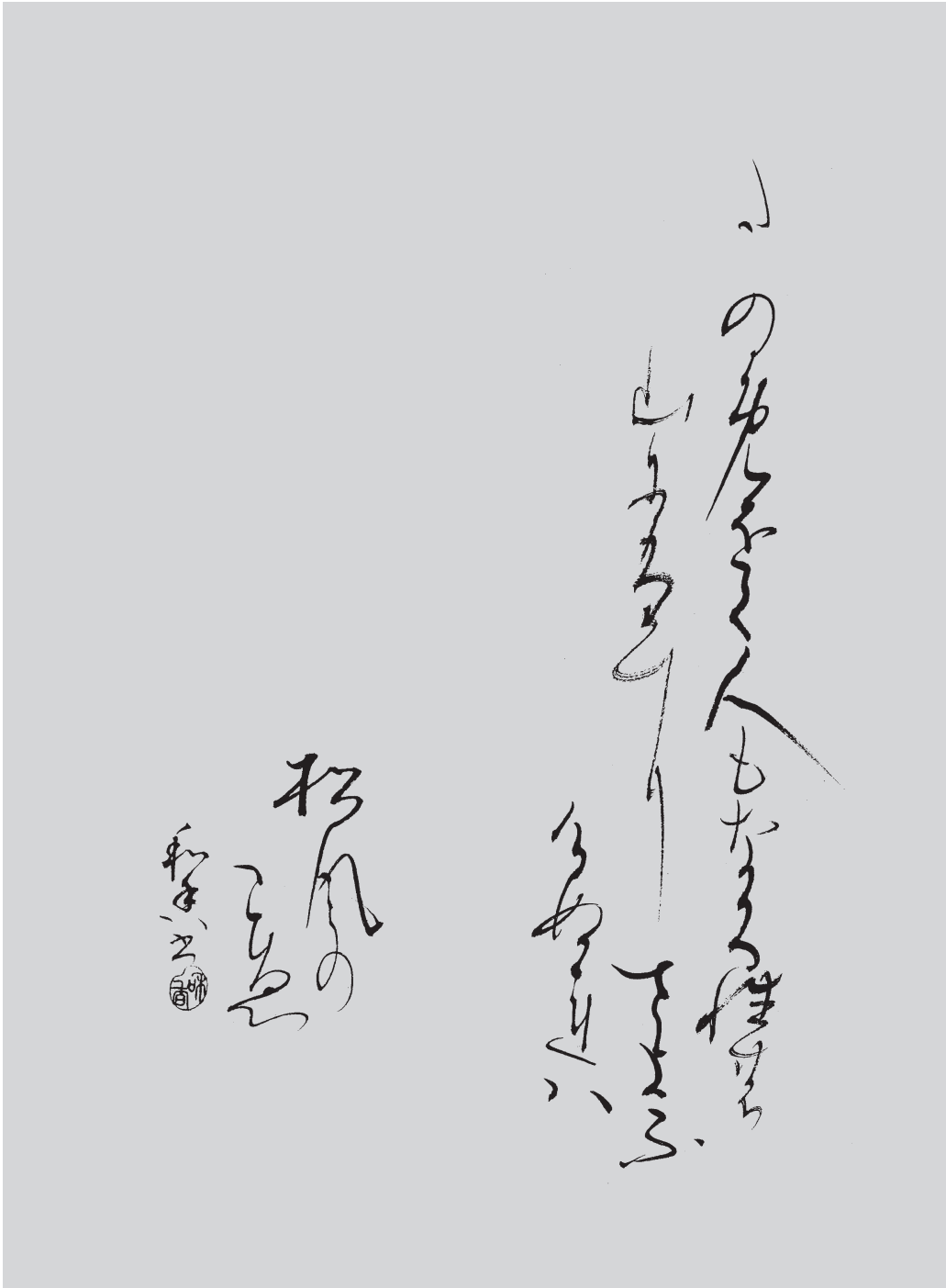
訳：雨あがりに春の芳草は茂りあい、風が吹きやんで到る処に落花は深い。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は420円

随 意 部 参 考

小林和香先生書

たのめをく人も長等の山にだにさ夜ふけぬれば松風の声
多の免を久人もな可羅農山尔堂耳さよふ介ぬ連八松風のこゑ



1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は420円。

松浦江波先生書

石原春香先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)

霧のように視界を曖昧にしな
がら、物の輪郭をやわらかにし、
春を運んでくるようなやさしさで
降る雨が好きた。

都鳥浮く大川に
流れてそくく川添の
白草さく若草に
夢多かりし吾身かな

課題1 (初段階以上)

都鳥みやどり浮く大川おほがはに
流れてそくく川添かわぞえの
白草しろくささく若草わかしらに
夢多かりし吾身わがみかな

「若菜集」島崎藤村

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四二〇円

課題2 (初段階以下)

霧のように視界を曖昧にしながら、物の輪郭をやわらかにし、春を運んでくるようなやさしさで降る雨が好きた。

「歌の彩事記」馬場あき子